「地域の福祉を充実させたい」その情熱と優しさこそが創意工夫の原動力となる

株式会社 イリエ

代表取締役　入江 克昌

略　歴

■仕事に対する意識を高め、チャンスを掴む

創業以来、右肩上がりの成長を実現させている入江社長。それに対して「運が良い」と言う人間もいる。だが運だけで人は成功するものではない。

また、運とは全ての人に平等に訪れるものだ。それを掴めるかはその人次第。つまり社長は、運を生かせる力を持っていたのだ。

ではその力とは何か――。社長は常に無駄を作らず、タイミングを見計らい、社会におけるバランス感覚を養って健康管理を怠らず、スピードとリズムを大切にしてきた。決して運だけではない。徹底された努力あってこその成功なのである。

介護保険制度が施行される以前より、既存の概念にとらわれぬ柔軟な発想で高齢者福祉事業を推し進めてきた「イリエ」。その先見性と独創性が実を結び、今や青森市とむつ市を中心に10もの事業及び事業所を展開している。「人のためになる仕事」を目指し、日夜邁進し続ける入江社長の想いにふれた。

対　談

吉沢　入江社長は本誌二度目のご登場ですね。改めて歩みから伺えますか。

入江　学業修了後は東京に出て、半導体を扱う営業職に就きました。営業マン時代はトップセールスを記録し続けたものの、やがて終わりのない競争の世界にうんざりしましてね。故郷に帰って、「もっと直に人と接し、役に立てる仕事をしたい」と思うようになったんです。そこで1989年に青森に帰郷し、最初に始めたのが福祉器具の修理の仕事でした。例えば壊れた車椅子を直したり、ご高齢の方が住むお宅に手すりを付けたりしていたのですが、ほとんどボランティアのようなものでしたね。また、地方ならではの保守的な土地柄だったこともあって、胡散臭い訪問販売と間違えられることも多々あり、随分苦労もしました（苦笑）。

吉沢　そこからどのように活路を見出していかれたのでしょう。

入江　サラリーマン時代のように物を売るのではなく、自分を売ろうと考えました。そこで人里離れた山奥に行き、車の中で鏡を見ながら自己改造。心がけたのは相手の目線に立つことでした。と言いますのも当時、「バリアフリー」は教科書的になりがちで、手すり一つにしても「床から何cmに取り付けましょう」なんていう説明書まで付いているほどだったんです。しかし私は、それはおかしいと思いました。人によって体格は違いますし、動作も生活習慣もそれぞれ。ですから実際に利用者やその家族に直接お会いすることで、利用者の所作をくまなく知ろうと考えました。その上で寸法を決めれば、利用者が一番楽に使えるよう取付けられるでしょう？　何よりも、実践的な支援を大切にしたいと思ったんです。

吉沢　専門家でないからこそ本質が見えたのかもしれませんね。

入江　ええ、ほとんど手探りでしたが（笑）。そうして努力するうち、利用者の方々が「面白い人だ」とか「きちんと説明してくれる」などと評価して下さるようになりましてね。口コミで噂が広まり、1996年には市町村役場と補装具の交付及び修理委託契約を結ぶことに。そしてその後、福祉施設の立ち上げに着手することを決意したんです。

吉沢　しかし当時はまだ、介護保険が導入される前ですよね？

入江　はい。ですから補助金などもなく、当時は民間で福祉事業に取り組む人も皆無。周囲からは、随分白い目で見られましたよ（苦笑）。

吉沢　資金などはどうされたのですか。

入江　銀行に行き、意気込みをプレゼンしました。福祉施設は本来どうあるべきか、そして現状を私がどう変えていきたいかを、ひたすら訴えかけたんです。

吉沢　一念岩をも通すとはまさに社長のことですね！　パンフレットを見せていただいたところ、御社の施設はどれも独創的。例えばこの「イリエール」は船がモチーフですね！　遊び心があり、何だか入ってみたくなります。

入江　デッキもあり、周囲の堀には魚が回遊しているんですよ（笑）。私は設計士ではありませんが、施設のコンサルティングの経験がありますので、その時に感じた「自分ならどういった施設にしたいか」「材料をどう生かすか」という想いを盛り込んで、設計の青写真を描いてきました。何分、既存の施設とは違う部分が多かったので当初は設計士がなかなか見つかりませんでしたが、しばらくして賛同してくれる設計士と出会い、建設に漕ぎ着けられた次第です。

吉沢　では各施設は、言わば社長の作品とも言えますね。

入江　ええ。また高齢者の方々が利用される施設の建設ですから、もちろん利用者にとって使い勝手が良く、かつ私は型にはまらず創意工夫を凝らすことを大切にしてきました。この創意工夫こそが私のモットーでしてね。施設を建ててしばらくすると、「この施設は満床ですか？」などと聞かれることもあるのですが、私は満床かどうかはあまり気にしていません。創意工夫を凝らして施設を造ることが先決で、興味を持ってもらえれば自然と入居希望者は集まりますし、お陰様で利用者のご家族からも高い評価を得ています。前回の取材から約12年間、毎年のように事業所を立ち上げ、現在は青森市とむつ市を拠点に10の事業所を展開し、私と弟たちしかいなかったスタッフも約80名までに増えました。試行錯誤、創意工夫の連続で、無我夢中でしたが、これまでを振り返って満足こそすれ、後悔はありません。

吉沢　アグレッシブな想いは、創業当時のままのようですね。そこに経験が加味され、益々勢いを感じます。

入江　光栄ですが、実のところ私は55歳で引退する予定なんです。これは会社を興す時から決めていたことでして、その後は私と同じ志を有する人間と出会うべく、旅に出たいと思っています。55歳にして再びゼロからのスタート。それも楽しみなことです（笑）。しかしまずはそれまでの4年間、我が社の宝であるスタッフたちと力を合わせ、自らの正義を貫き通して、青森の福祉の充実に一層励む所存です。

厳しさの陰に隠れた真の優しさ

利用者に質の高いサービスを提供するためには、スタッフが意識を高め、一致団結することが欠かせない。そのため社長はスタッフへの指導を徹底している。それを裏付けるものにこんなエピソードが――。昔、あるスタッフが「注文を取ってきました」と帰ってきた時、社長はその意識の低さを叱りつけた。福祉とは物を売る仕事ではなく、そこには人と人との関わり合いがあり、「誰かの役に立てる仕事」。そんな福祉の世界に身を置く素晴らしさを感じ、誇りを持ってほしい。だから社長はスタッフを叱ったのである。

専務取締役　入江　寛

ケアアドバイザーとして、創業間もない頃から兄である入江社長を支えてきた。現在は専務取締役。入江社長の右腕とも言うべき存在である。

ただ、社長が厳しく指導する理由は他にもある。それは、仕事を生活するための手段として捉えるのではなく、仕事によって充実感を得てもらいたいと願うからだ。社長の叱責は全て、自分を磨き、今後の人生に生かしてほしいという、部下に対する愛情の表れなのだ。その証拠に社長は小さくこう言った。「創業間もない頃から私を支えてくれた専務をはじめ、スタッフ全員が宝だと思っています。普段口に出しては言いませんがね（苦笑）」。

得てして愛情とは、深いほど見えにくいものである。そして人が成長できるのは、こうした想いをきちんと汲み取れた時なのだろう。志を持って部下を叱ることのできるトップがいてこそ、「イリエ」のスタッフは高い意識を有した一枚岩としてさらなる高みを目指すことができる。

●事業所案内

青森エリア《青森市》

株式会社 イリエ（本社）

青森市大字安田字近野366-6
TEL 017-781-9430
URL: http://www.irie-pro.co.jp

様々な介護事業を展開する「イリエ」の本社。「むつ営業所」と共に、青森の高齢者の生活を、しっかりと支えている。

●改修支援センター
より快適に過ごしてもらうため自宅を介護に適した住宅に改修する提案を行ない、徹底した介護支援を実現している。

●介護養成研修室
介護や福祉における人材育成を行う。ここで専門的知識をしっかりと習得した人材たちは今や介護の各分野で活躍中だ。

●レンタルサービス
介護用品・福祉用具などのレンタルサービスを手掛けている。高品質の製品はどれも、利用者のことを第一に考えられた設計。品質を支えるスタッフのメンテナンス技術も非常に優れているから安心・安全に使用できる。

●おむつ宅配
高齢者の自宅までおむつ商品を宅配する。元気なアドバイザーたちの丁寧な対応が高評価。

青森県指定認知症対応型共同生活介護事業所

あおやぎグループホーム

青森市青柳2丁目9-28
TEL 017-721-6220

認知症高齢者が、楽しく共同生活を過ごせるように心のこもったケアを提供している「あおやぎグループホーム」。

市内の中心街に位置し、商店街、病院、各公共機関なども近いため、これまでの生活環境からの疎外感がない。

常勤の看護スタッフたちは、利用者ご本人を中心とした生活の中で認知症の進行が穏やかになるような関わりを大切にしている。

また、廊下にはパネルヒーターが完備され、年間通して快適に過ごせる他、清潔感のある広々としたお風呂、それに入居者が集まって談話に花を咲かせる食堂など、生活環境も充実している。

住宅型有料老人ホーム

グループハウス横内

青森市大字横内字亀井25-1
TEL 017-738-9696

とても温かい雰囲気の住宅型有料老人ホーム「グループハウス横内」。

部屋は6畳洋室と夫婦用9畳洋室があり、いずれも、使い勝手の良いクローゼットと暖房を完備。緊急コールも付いているので、有事の際にも安心だ。

また、ホーム内には共有スペースとして食堂、談話室、浴室、洗濯機などが揃えられており、入居者同士の交流も図ることができる。

さらに「いりえヘルパーステーション」も併設しており、青森市周辺の地域を対象に訪問介護事業も展開中である。

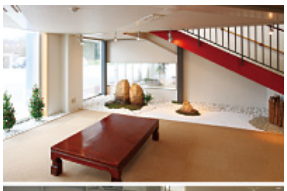
むつエリア《むつ市》

居宅介護支援事業所

(株)イリエ むつ営業所

むつ市大字田名部字宮ノ後198-1
TEL 0175-33-8220

「むつ営業所」では、通所介護事業と訪問介護事業を手掛けている。



●通所介護事業(いりえデイサービスセンター)
自宅にこもりがちな高齢者を、リフト付き車両で送迎。自宅とは違った環境で入浴や体操、またはレクリエーションをしてもらい、気分転換・ストレス発散に役立ててもらうと共に、自立を支援する介護保険サービスである。

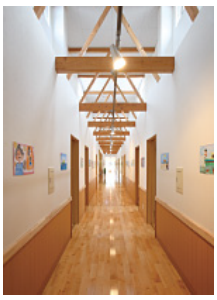
●訪問介護事業(いりえヘルパーステーション)
専門のホームヘルパーが、介護などを必要とする高齢者の自宅に訪問。自立した生活を送れるように、掃除や洗濯、調理といった“生活援助”から、食事、入浴、排泄などの“身体介護”までを行う支援サービスだ。

住宅型有料老人ホーム

イリエール

むつ市大字田名部字宮ノ後198-1
TEL 0175-33-8220

「イリエール」は、土足のまま、車椅子などで直接部屋までいけるとても開放感に満ちた住宅型有料老人ホームだ。



客船クルーザーをモチーフにした外観のみならず、周囲には魚が回遊する堀を巡らせてあり、遊び心が溢れている。

もちろん見た目だけでなく、内容も充実しており、全室に冷暖房及びクローゼットを完備。食堂は、映画館のようなプロジェクターが設置された憩いの場となっている。

地元の子どもたちが描いた絵が展示された長い廊下でほんわか温かくなり、天気の良い日にはそのまま土足でデッキに上がって食事できるのも嬉しい。

生活支援ハウス

あいの里

むつ市大字田名部字宮ノ後198-1
TEL 0175-33-8220

ホタテ貝をモチーフに造られた楽しい外観の生活支援ハウス「あいの里」。吹き抜けの天井から自然光が注ぎこむ交流スペースは、開放感でいっぱいだ。

また館内は、一周できる通路で囲まれており、雨の日でも外の景色を楽しみながら自由に散歩できる造りとなっている。

もちろん各部屋の設備も充実。6畳の洋室にはクローゼット、トイレ、洗面化粧台と、暖房も完備。また、施設内には広々とした共同浴場もある。

住宅型有料老人ホーム

あいの里２

むつ市大字田名部字宮ノ後198-1
TEL 0175-33-8220

可愛らしい外観からは想像もつかないほど広々とした住宅型有料老人ホーム「あいの里２」。

天井が高く開放的な交流スペースがあり、それを取り囲むように各部屋が配置されている。

その入り口には、表札がわりにガラス張りのプライベートボックスが備えられており、家族との思い出やお花などを飾れるのも嬉しい。

クローゼットが付いた各部屋にはトイレと洗面化粧台、それに暖房が完備されている他、施設内にはデイサービスの浴室も用意されている。

対談を終えて

「入江社長がこれまで歩んでこられた道のりには、いつも自らの信念に基づいてこられた意志の強さが見えました。対談の最後におっしゃった55歳で新たなスタートを切りたいという夢は、何とも社長らしい、力強く希望に満ちた目標ですね。さらなる創意工夫を拝見できることを楽しみにしています！」（吉沢 京子さん・談）